

樂也、御習禮云々、廿日己巳、今夕三席御會也、唐船管絃御座船也、廿一日庚午、御連歌御會也、中

略及曉、天面々退出云々、廿二日辛未、今夜行幸崇賢門院御所、筵道御步儀、堅固内々儀也、廿三

日壬申、今日晴和歌御會也、題花契萬年、御次第別在之歟、廿四日癸酉、今日數剋、御乘船御遣遙云

云、又西之馬場邊御經歷、中入夜早歌被聞食之、廿五日甲戌、御鞠在之、堅固密々儀云々、中入

夜加加白拍子被聞食、廿六日乙亥、無殊御事、内々一獻在之云々、今日靈巖邊御歷覽、廿七日丙子、

無殊御事、入夜又加加白拍子被召之、舞歌云々、數獻御大飲及翌朝了、廿八日丁丑、行幸還御、

○按ズルニ、足利治亂記ニ、北山行幸ノ當時、六角滿高種々ノ寶器ヲ陳列セシ事アレドモ、僞書

ナレバ取ラズ、

〔永享九年十月廿一日行幸記〕

一未刻計に、先室町殿義教御參内有中

一申刻計に、行幸ならせ給ふ、後花此間室町殿、持康朝臣か宿所にて、御馬にめして供奉せしめ

給中

一御路東洞院を南行、中御門を西行、室町を北行、武者小路を東行、今出川を北行、北小路を西へ行、

室町を北行、室町殿の四足に至る中

一廿六日還幸之日也、中室町殿一色五郎宿所にて御馬にめさる、中室町殿列をはなれて退

入せ給、中常御所へ有御參、恐々被申御禮、

〔聚樂第行幸記〕今上皇帝陽成十六歳にして御位に即せ給ふ、百官巾子を傾け、萬民掌を合せずと

いふものなし、寔君臣合體時を得たり、異朝においては、成王の爲に周公旦攝政し、本朝にては清

和の爲に忠仁公執柄を給ふ、符を合するがごとし、延喜醍天曆上の政も、又おほく譲らず、爰

において行幸あるべしとて、聚樂と號して里第をかまへ、四方三千歩の石のついがき山のごと